

### 第3回奈良市学校規模適正化検討委員会会議録

日 時 平成21年(2009年)2月27日(金)14:00~15:30

場 所 市役所 中央棟6階 第1研修室

委員名簿 奈良市学校規模適正化検討委員会委員(20名)(敬称略、順不同)

会 長 重松 敬一 (学識経験者・奈良教育大学副学長)  
上野 ひろ美 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
八尾坂 修 (学識経験者・九州大学大学院教授)  
小柳 和喜雄 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
岡田 博義 (保護者代表・奈良市PTA連合会会長)  
向谷 仁美 (保護者代表・奈良市PTA連合会中高校部会部長)  
今中 和子 (保護者代表・奈良市PTA連合会小学校部会部長)  
副会長 酒井 重治 (学校代表・奈良市立学校園長会会長)  
福井 敏雄 (学校代表・奈良市立中学校長会会長)  
武野 正 (学校代表・奈良市立小学校長会会長)  
山村 悦子 (学校代表・奈良市立幼稚園長会会長)  
吉岡 正志 (地域代表・奈良市自治連合会会長)  
田中 幹夫 (弁護士・奈良市顧問弁護士)  
津山 恭之 (行政代表・政策監)  
上田 和利 (行政代表・総務部長)  
吉本 賀勇 (行政代表・市民生活部長)  
神田 義隆 (行政代表・市民活動部長)  
荒木 恵子 (行政代表・保健福祉部長)  
中室 雄俊 (行政代表・学校教育部長)  
嶋田 康敬 (行政代表・教育総務部長)

出席者 委員 10名 (欠席:上野委員、八尾坂委員、小柳委員、酒井委員、  
田中委員、津山委員、上田委員、神田委員、  
荒木委員、中室委員)

事務局 9名 学校教育課長、学務課長補佐、教育企画課長、  
教育企画課職員6名

議 事 1.開会  
2.議事  
(1)学校規模適正化の進捗状況等について  
(2)学校規模適正化における課題への検討について  
(3)幼稚園の統合再編について  
(4)その他  
3.閉会

会長

- ・ただ今より、第3回奈良市学校規模適正化検討委員会を始めさせていただきます。
- ・学校規模適正化の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

### 学校規模適正化の進捗状況等について

事務局

- ・学校規模適正化（前期計画）の進捗状況等について説明した。

会長

- ・それぞれの地域の進捗状況について、何かご質問はございませんか。

A委員

- ・鼓阪北幼稚園について、「小規模校のメリットを強調され」とあるが、どのような立場の方の意見ですか。
- ・また、説明会に保護者の方は参加されたのですか。

事務局

- ・ここは自治会の方だけです、保護者の方の参加はありませんでした。
- ・自治連合会がない地域なので、計画の内容・説明会の通知についての方法や、地域の意見の集約に苦慮しています。
- ・自治会がない場合は、マンションの管理組合の代表者等に通知するなど、幅広い周知を心掛けています。
- ・この計画について、奈良市全体を考えたものであることを説明しています。
- ・地域の代表に対して、ある一定の説明が出来た段階で、保護者や学校園を入れて組織づくりをしていきたいと思えます。

A委員

- ・先日、PTA連合会の幼稚園部会が開かれ、認定こども園制度について、説明しました。
- ・保護者は、認定こども園について、現在の幼稚園のシステムより一歩進んだものとしてとらえているので、非常に興味を持っておられる。
- ・統合・再編先において、認定こども園制度の導入を予定している地域については、より丁寧な説明を心掛けてほしいと思えます。

会長

- ・保護者にメリットが伝わりにくいので、周知の仕方を工夫する必要があります。

### 学校規模適正化における課題への検討について、幼稚園の統合再編について

会長

- ・学校規模適正化における課題への検討について、事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・スクールバスと通学費の現状について、説明します。
- ・原則として、学校の統廃合で新たな学校に通学しなければならないという場合、スクー

ルバスを運行し、定期代の全額を市が負担します。

- ・前述の他に、「遠距離通学助成」という制度があります。  
学校の統廃合の有無に関わらず、校区の状況から遠距離通学となっている場合（小学校では片道2キロ以上、中学校は4キロ以上を遠距離通学とし、バスを利用している場合には定期代の2割を市が助成しています。例外として、定期代が年額7万5千円を超える場合は6万円を控除した金額を補助しております。つまり、保護者にとっては最大年間6万円の負担になります。
- ・中学生については、自転車通学を認めている学校もあります、バス路線がない学校もあります。自転車通学をしている場合はバスの定期代に換算して、その1割を助成しています。
- ・スクールバスについては、奈良市東部地域の柳生・大柳生・相和・田原の4小学校と興東、田原中学校、平成17年に合併した旧都祁村の六郷小学校の児童・生徒を対象に奈良交通に委託してスクールバスを運行しております。
- ・小学生の定期代は全額市が負担、中学生は遠距離通学助成ということで原則2割補助しています。
- ・旧月ヶ瀬村地域は、合併前から（伊賀市と共同で）三重交通に「自主運行バス」を委託・運行していて、小学校・中学校ともに利用しております。その委託料については、教育委員会ではなく、自主運行バスを所管している部署が支払っております。
- ・教育委員会では、小学生にかかる定期代を委託料というかたちで全額負担しております。中学生につきましては、遠距離通学助成の2割を負担しております。
- ・月ヶ瀬村については、過去に中学生が（巻き込まれる）不幸な事件があったため3割補助をしていたが、経過措置を取りながら他と同じ2割補助へと合わせているところです。
- ・幼稚園につきましては、現在保護者による送迎をお願いしており、また小・中学校と違って通学区域もありませんので、現在のところ、通学費の助成ははしておりません。また、特段の理由がないかぎり、自動車による送迎は認めておりません。

会長

- ・何か意見はありませんか。
- 事務局
- ・学校規模適正化を実施していく上で上がっている課題について、他県他市町村の状況踏まえて説明をしていきます。
  - ・他市の公立幼稚園でのスクールバス及びスクールタクシーの運用状況について説明した。
  - ・先ほどの事務局が説明した制度のまま、学校規模適正化の統合・再編を進めていくと、小学校・中学校については、通学費負担が発生しないのに、幼稚園については、有料になったり、無料になったりするという問題が発生してきます。

会長

- ・続けて、幼稚園の統合再編について、事務局から説明をお願いします。

## 事務局

- ・市立幼稚園の現状について、説明をしていきます。園児が集まらない、それに伴って、幼稚園が小規模化していく、そのことにより、教育環境が整備しにくくなる。その結果、ますます園児が集まらなくなり、小規模化する。言ってみれば、負の連鎖とも言える現状があります。
- ・教育委員会が適正化の計画を立てる際に、園児数の推移をいたしました。その時の推移より、園児数の減少スピードが速いように思えます。
- ・現状では、前期計画に基づいて適正化を進めていきます。しかし、減少スピードを加味して、中期計画の実施については、見直していく必要があるのではないかと感じています。

## 会長

- ・案件をまとめて説明いただきましたが、何か質問はありませんか。

## A委員

- ・統廃合で保護者には、子どもたちの安全や通学費の負担が問題になってくる。非常に難しい問題ですが、より丁寧に説明して、わかっていただくしかないと思います。

## B委員

- ・地域の中で、幼稚園の統合・再編の話が、小学校まで統合・再編されるという誤った情報に変わってしまう。子どもにとって、途中で小学校が無くなるのはかわいそうということで、国立や私立の小学校受験を考える保護者が増えている。また、その受験に失敗してしまうと、ショックを受けてしまう保護者もいると聞いています。
- ・市として、統合・再編の計画の内容と、その必要性を正確に伝えていただくことが保護者の不安を取り除くことになると思います。

## C委員

- ・公立の小学校に行かそうと思っている方が、その学校がいつか統廃合になり、よそに行かなければならないかもしれないと思うと、その小学校に行かせることに不安をもたれると思います。それで私立を受験されたりすると思います。
- ・個人的には、通う学校が変わることも子供にとってよい経験になると思いますし、友だちが増えることにつながります。適正化について、不満もあると思いますが、保護者にとって、メリットの部分は、ありがたいことだと思います。
- ・誤解された情報が独り歩きし、尾ひれがついて回る前に、教育委員会から、しっかりした説明が頂けたら、ありがたいと思います。

## D委員

- ・建前ばかりの話ではなく、財政面とか本音の部分でお話ししていくしかないのかなと思います。
- ・どの校区においても少子化は避けられないので、誠意をもって本音の部分で話していくのがいいと思います。

#### E 委員

- ・ 鼓阪北幼稚園のように比較的新しい園でも「少ない人数でもちゃんと教育できるじゃないか、なぜ適正化するのか？」という声が出てきています。
- ・ 旧の町村、我らが町村の幼稚園や小学校とと思っている地域は、もっと思い入れが強いと思います。
- ・ しかし、3・4人の園児数で果たしてどんな教育ができるのか考えた場合、ある程度の人数が必要であるということと、そのメリットを説明していく必要があります。
- ・ 統合・再編することで、良い面もたくさんあると思う。そのことを丁寧に説明しながら、理解を得ながら進めていくのがいいと思います。

#### F 委員

- ・ 生駒市や天理市、大和郡山市が10年ほど前、3歳児保育を始めた。そのタイミングで3歳児保育を導入しなかった奈良市の姿勢に疑問を感じています。
- ・ 統合再編先の選定理由に、建物の老朽化を挙げられる。しかし、いつか老朽化することは、建てたときに分かっていたはずであり、統合再編の理由としてあげることに疑問を感じています。
- ・ また、確かに出生率は低下している。しかし、結婚しなくてもいいよという結婚適齢期の男女が増えてきていることと、幼稚園の入園希望の減少と結び付けることには疑問を感じています。
- ・ 認定こども園制度を導入する富雄南幼稚園での成果によって、統合・再編の在り方も変わってくると思います。
- ・ 運用がうまくいけば、3歳児保育も預かり保育も幼稚園の中で実現できるということを示すことになる。その結果が統合・再編を加速的に進めていくことができると思います。
- ・ 教育委員会も、統合・再編をすることで3歳児保育をするという意気込みでやってもらいたい。

#### 会長

- ・ 人口が増えていく状況の中で、予算的なことを考えたとき、3歳児保育までなかなか手が回らなかったというのが現状だと思います。

#### G 委員

- ・ 何度も申し上げますが、学校・園は地域社会の磁石になっていて、人々がネットワークを形成して作って地域をつくっています。
- ・ そのネットワークを統合・再編によって、一旦解消して組み直すという作業になります。教育環境の整備という観点から止むを得ない。しかし、一貫性を持たせて推進していただきたいと思います。
- ・ 地域や保護者に圧力をかけるということではないが、場合によっては、行政として思い切って進めていく必要もあると思います。
- ・ 問題を先送りした結果、追い詰められて、やらざるを得ないという状況になっていると

思います。長期的に考えて計画・構想を打ち出す必要があります。

#### C委員

- ・統合・再編して、魅力ある学校園を作っていくことが重要だと思います。
- ・保護者のニーズにどの程度応えていくのか、3歳児保育・給食・預かり保育などを導入した、モデル校を作ってやっていく方法も考えられます。
- ・ただ、統合・再編を進めるなかで、統合先への通園・通学してもらう必要が出てくる。
- ・保護者の立場から発言すると、新たな負担が発生すると聞くだけで、統合・再編を伴う適正化の計画には、どうしても不満が出てくる。そうなるとこの計画に理解を得ることは難しくなってきます。

#### 会長

- ・一般的に、自分の通っていた学校や園が全て今も残っているというケースは少ないのではないかと思う。思い出のある学校園がずっと残っている方がほとんどいないと思います。
- ・かつて、学校園というのはコミュニティの中心であった。しかし、適正化を進めていくなかで、学校園がなくなってしまう。このことを考えると、コミュニティを学校中心以外で作ることはできないか考えていく必要があります。
- ・事務局から何か意見はありませんか。

#### 事務局

- ・前期計画について、ほとんどの地域で推進協議会を立ち上げていただいた。進捗状況が芳しくないとお叱りをうけています。
- ・この協議会でいただいた貴重なご意見を尊重し、丁寧に地元に戻していく形で協議を丁寧に進めていくように努めています。
- ・認定こども園制度を導入した富雄南幼稚園での成果が、統合・再編の進捗に良い影響が出てくることを期待しています。

#### 事務局

- ・学校の施設を担当しているが、人口急増期に建てられたが園舎や校舎が多くなっています。
- ・そのため、校舎の老朽化、また耐震化について、いろいろな問題が発生しているのは、確かなので、優先順位をつけて、しっかりと対応していきたい。

#### 会長

- ・財政状況が厳しい中、事務局もいろいろ工夫して、統合・再編を伴う適正化を推進して行ってほしい。
- ・例えば、実施計画案に沿って、早く対応して頂けると条件整備について、いろいろなサービスが付くが、遅くなるとその内容がどのようになるか分からないなどと言ってみてもいいかもしれない。
- ・お時間になりましたので、第3回適正化検討委員会を終了します。